

令和8年度 学校経営計画

令和8年4月1日
大田区立大森第八中学校長
大山 剛史

1 おおた教育ビジョンの理念「笑顔とあたたかさあふれる未来を創り出す力を育てます」

基本方針1 持続可能な社会を創り出すグローバル人材を育成します

- 個別目標1 予測困難な未来社会を創造的に生きる力を育成します
- 個別目標2 世界とつながる国際都市おおたを担う人材を育成します
- 個別目標3 一人ひとりが個性と能力を発揮するための基礎となる力を育成します。

基本方針2 誰一人取り残さず、こどもの可能性を最大限に引き出します

- 個別目標4 学校力・教師力を向上させます
- 個別目標5 自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します
- 個別目標6 柔軟で創造的な学習空間と安全・安心な教育環境をつくります

基本方針3 すべての国民が未来を担うこどもを育て、ともに学び続けます

- 個別目標7 学校・家庭・地域の連携・協働による地域コミュニティの核としての学校をつくり
ます
- 個別目標8 生涯学び続ける環境をつくります

2 学校教育目標

- (1) 心身ともに健康な生徒
- (2) 自ら学び、向上する生徒
- (3) 心豊かで、思いやりのある生徒

3 目指す学校像

- (1) すべての生徒にとって安心・安全で居心地のよい学校、居場所がある学校
- (2) 文武両道の学校
- (3) 生徒が主体的に考え行動し、協働していく学校

4 具体的な目標と方策

(1) 笑顔とあたたかさあふれる豊かな心の育成について

- ① 道徳授業、教科、総合的な学習の時間、学級活動、学校行事等の全教育活動を通じて「豊かな心、思いやり」に重点を置き、全教員で指導にあたる。
- ② 日直の教員など全教職員輪番で朝のあいさつ運動を実施し、あいさつを通じて生徒のコミュニケーション能力を高める。(あいさつがしっかりしている生徒：75%以上)
- ③ ボランティア活動等の参加を通して、地域に必要とされているという自己有用感を味わわせる。地域活動以外でも今後どのように社会貢献、奉仕活動していけるかを考え実践させる。
- ④ 生徒の人間関係を良好にするために、学級集団調査とWEB-QUを活用し、不登校やいじめに対する早期発見、早期対応、学級づくりに役立てる。
- ⑤ 毎日の生活記録ノート(デイリーライフ)を活用し、生徒一人ひとりと日記のやりとりをすることで生徒の理解を深めるとともに、教職員間の情報交換を大切にする。
- ⑥ 教職員が生活指導基本方針やいじめ防止基本方針を確認し合い、厳しくもあたたかい指導につとめ、組織をあげて生徒の規範意識の向上と健全育成に努める。生徒が委縮するような言動や人権配慮に欠ける言動は行わない。
- ⑦ 問題行動に対しては、教員間の情報共有と共通理解の下、即日対応を行う。その際、一方的な情報や思い込みから指導せず、生徒理解に努め、生徒の心に響く指導を心がける。
- ⑧ 生徒に不安があるときにはいつでも相談にのれる教育相談体制を構築する。(親身になって

相談にのってくれる：70%以上)

- ⑨ 不登校や特別な支援が必要な生徒に対して、校内支援委員会が中心となり、SC や関係諸機関と連携を図りながら迅速・適切な対応を行うとともに、別室対応等の居場所の確保に努める。つばさ適応教室との連携についても全教職員で携わる。
- ⑩ 不登校生徒については欠席が数日間も連続している場合や生徒自身と連絡がとれない場合に電話連絡だけでなく定期的な家庭訪問、情報伝達等を組織的に対応する。

(2) 確かな学力の定着と文武両道について

- ① 「主体的・対話的で深い学び」による授業改善を実践する。教師による一方的な授業ではなく生徒の主体的活動を促進する。(主体的・対話的な授業を展開している：80%以上)
- ② 確かな学力の定着のために学習のねらい、評価規準を明確化するとともに定期考査だけでなく日頃の学習活動で評価する。主体的に取り組む姿勢を育成するための家庭学習課題等を提供する。
- ③ 年2回のOJT 週間において、教師相互の授業観察で指導力や評価について研鑽に努める。授業規律の確立と学習に対して主体的に取り組むための授業力向上のための研修を行う。
- ④ 平日、土曜日、長期休業日中の補習教室を開設し、確かな学力定着の一助とする。
- ⑤ 積極的に ICT 機器を活用し、生徒用タブレット端末を有効活用することにより個に応じた学習を充実させ、主体的に学ぶ意欲・態度と学力向上の両立を図る。
- ⑥ 実用英語技能検定試験を推奨し(卒業までに英検3級取得：50%以上)の取得を目標に、英語による読み書き、リスニング、会話といったコミュニケーション能力の向上を図る。
- ⑦ 持続可能な社会の実現に向け、各教科においてSDGsに関連づけた指導内容を組み込む。理科教育やものづくり教育、総合的な学習の時間や生徒会活動、学校行事等を通してSDGs・STEAM教育を推進する。
- ⑧ 部活動を通して運動能力の向上や文化に関する素養を高める。体力向上に関しては体育の授業、昼休み、部活動を通じて運動する習慣や健康に関する意識を高める。

(3) 生徒が主体的に考え行動し、取り組む学校について

- ① 学校行事等に対し生徒に主体に取り組みせ、感動と成就感をあたえる。連合行事や各種コンクール、公募などに参加した生徒を全校朝礼等で紹介、学校だより等に掲載し、様々な活動に意欲的に取り組ませる。生徒の良さや頑張りをほめる教育やボランティア活動等を通して、自信や自尊感情を育む。対外的な成果はすべて生徒朝会等で表彰する。
- ② 部活動の充実を図る。部活動指導員や外部指導員を活用し、指導内容のレベルアップと効率化を図ることで生徒の意欲を引き出す。(部活動や学校行事が充実している：80%以上)区の人材ボランティアや東京都のサポーターバンク等も積極的に活用する。
- ③ 安全教育・防災教育に対し、常に危機意識をもって事故発生時に迅速・適切な対応をとる。地域関係諸機関と連携し発災時には主体的に地域で協働し、協力体制のとれる生徒を育成する。

(4) 地域連携、その他

- ① コミュニティー・スクールとして、「大田区学校運営協議会」「地域学校協働本部」と協働し、地域とともにある学校づくり、学校を核とした地域づくりを目指す。
- ② 学校・家庭・地域の協働により、生徒成長を成育歴等の「時間軸」と生活圏等の「エリア」で捉え、包括的に生徒の育成を図る。
- ③ 学校からの発信・広報、保護者・地域との連携、小中連携等、学校・学年だより、ホームページ等で学校からの情報を積極的に発信し、保護者・地域等にとって開かれた学校となるよう努めるとともに保護者、PTA と良好な関係を継続させる。
- ④ 小学校との情報交換を密にし、小中一貫教育を効果的に進めることで生徒の成長につなげる。
- ⑤ 授業補助、部活動支援、総合的な学習の時間における講師等、地域人材を積極的に活用する。
- ⑥ 教職員自身が働いていて気持ちの良い職場、教職員集団の形成として親睦会の活動等を含め、日頃から教職員の親睦を深めチームワークを育む。教職員は時間厳守、身の整理整頓等、仕事の効率化を意識するとともに、一定期間の休暇取得(年10日間以上)、定時退勤週間(月1回)を設けて働き方改革を实践、ライフワークバランスを整える。